

2021第35回神奈川トライアスロン大会
第25回JTU関東ブロック選手権大会
運営についての要点 (KnTU・COVID-19対策)

このレジュメは、新型コロナウイルス感染症の拡大に関し、WTとJTUから発信されている「大会開催時のチェックリスト」に準拠し、神奈川大会の運営に当たって、実現させる要点を記したものである。

神奈川大会実行委員長
高崎

A：全般

- 1.この大会は無観客とし、スタッフ、参加者以外は認められた支援者のみが入場を許される。
- 2.チェックしなければならない項目が遵守されているか、コロナウイルス対策委員を定め、会場内を定期的に巡回して確認する。
- 3.万が一、新型コロナウイルス感染症が発生した場合に備え、すべてのスタッフ、参加者、支援者情報を保存しておく。大会後1カ月をめどとする。
- 4.新型コロナウイルス感染症が発症した人がいた場合、地域の対応方針について自治体の衛生局（保健所等）、救急担当病院とあらかじめ検討を持つ。
- 5.神奈川県に緊急事態宣言が発令された場合、大会を中止する。
- 6.スタッフ数の必要十分な確保を行う。
- 7.会場すべてに、ソーシャルディスタンスを保った導線の確保、指導を行う。
- 8.この大会で使用する「マスク」は、感染ウイルス拡散を防止する効果の高い、不織布でできたものとする。

B：スタッフ、参加者、支援者への対応

- 1.スタッフ、参加者、支援者への事前説明を徹底、資料を事前配布する。
- 2.スタッフ、参加者、支援者が以下の条件にある場合、参加見合わせを求める。
体調が良くない場合（大会当日朝、37.5度以上の体温がある場合）、同居家族や近親者に感染が疑われる方がいる場合、観察期間を必要とされている国・地域から帰国後、14日が経過していない場合。
- 3.選手以外の支援者は、ジュニア・高校生は1名、そのほかの選手は支援者を認めない。また、チームの支援者は、1チーム2名とする。
- 4.「三密」の回避を心がけることを呼びかける。応援スペースには、2mごとに白線などを引いておく。
- 5.マスクの着用は必須。シールドなどは必要に応じて使用する。各所に、目に付くように消毒用エタノールを配置する。
- 6.参加者の身体に触れなければならない場合、使い捨ての手袋を着用する。
- 7.大会後、2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、KnTU（事務局<杉浦

> : 070-3236-2277) に必ず連絡することをスタッフ、参加者、支援者に願います。

8.参加者へのお願い。

「三密」回避、ツバやタンを吐かない、タオルなどは共用しない、飲料の回しのみはしない。大声での声援や指導などは行わない。

9.参加者、スタッフは、必要以上に裸足にならない。

10.マスク、手袋着用後は、手指の消毒を行う。

11.厚生労働省のコロナ対策アプリケーション（COCOA）の活用を促す。また、神奈川県「感染防止対策取組書・LINEコロナお知らせシステム」へのQRコード読取りによる登録を、スタッフ、参加者、支援者など来場者すべてに推奨する。

12.大会中に食事（カレー）が支給されるが、密を避け「黙食」を心がけるアナウンスを随時行う。

C：受付

1.消毒用エタノール（エタノール76.9～81.4%：日本薬局方）を目に付く場所に配置。

2.スタッフ、参加者、支援者すべて、大会当日まで2集会の体温測定値と健康チェックを行い、当日の朝、現地で体温を測定する。どちらかが37度以上の場合、メディカルに健康相談。37.5度以上の場合には参加辞退。

3.健康チェックシートは、大会後1カ月は保管。（その後、廃棄）

4.受付時にはソーシャルディスタンスを守るよう配慮。

5.出場可能となった参加者は、リストバンドを装着する。スタッフ、支援者も同様。

6.参加者への提供物（レースナンバー、キャップなど）は、事前郵送。

D：競技説明会

1.事前にオンライン競技説明会を用意。

2.当日はアナウンスのみで競技説明会。

E：開会式、表彰式、閉会式

1.基本的に、アナウンスのみで行う。

2.結果については、ホームページに掲載する。

F：スタート

1.ジュニア・高校生・一般はタイミングスタートとする。電子音で栈橋上のスタート地点を各自随時スタートする。スタート待機時は、ソーシャルディスタンスを考えた列作りを行い、スタート直前までマスク着用する。スタート前にマスクを所定のゴミ捨てに回収する。

2.選手権は、最大60名の参加者が1mおきに並んでスタートする。無理な場合は前後2列とする。

3.ウォームアップについて、可能であれば実現させる。

G：スイム

1. スイムコースは、すべての競技で栈橋を下りて入水し、また栈橋を上がってスイムフィニッシュする。コースは、最長でL字型のコースとする（最大でも1周回）。
2. 栈橋上は、一時期に10名以内の使用を厳守する。

H：トランジション

1. ソーシャルディスタンスに配慮し、最低1mの距離を実現させる。（バイク8台掛け→5台掛け）
2. トランジション内での参加者同士の会話は、原則的に禁止する。
3. トランジションの設営に際し、バイクラックを消毒用エタノールで清拭する。
4. 手指消毒の場所確保。

I：バイク

1. 選手権以外は、ドラフティング禁止。

J：ラン

1. 対面を避けたコースを実現する。
2. 参加者間の飲食物のやりとりの禁止。

K：エイドステーション

1. スタッフが給水コップに水を注ぎ、参加者が自ら取り上げる方法をとる。
2. エイドステーションにもエタノール消毒液を準備する。
3. エイドステーションスタッフは、マスクのほか使い捨て手袋も使用。手袋を使用しても、随時の手洗いを推奨。
4. ゴミは、早めに袋を縛って、ゴミの拡散を防ぐ。
5. 水の提供者と、ゴミの回収者を分ける。
6. 選手権の水の提供は、ペットボトルとする。

L：フィニッシュ

1. 繰り返しのフィニッシュテープの使用は行わない。従って、選手権男女1位のみへのフィニッシュテープの使用とする。
2. フィニッシュ後に参加者にマスクを配布し、すみやかな着用を促す。
3. フィニッシュ後の水は、未開栓のペットボトルとする。
4. フィニッシュ後は、ソーシャルディスタンスを実現させるよう誘導する。

M：更衣室など

1. 可能な限り、十分な広さを実現させる。男女それぞれ別テントを用意し、一度に4名の使用に限定する。
2. 定期的な換気に努める。
3. 参加者が触れる場所は、定期的に消毒用エタノールで拭き取る。

N：トイレ・手洗い場所

- 1.消毒用エタノールを配置。
- 2.ドアノブなどは、定期的に消毒用エタノールで拭き取る。
- 3.手洗い場所には、石けん、手拭きペーパー、蓋付きのゴミ箱を用意。

O：ゴミ廃棄

- ・マスク、手袋、使用後のティッシュペーパー、ペーパータオルなど、ゴミ袋に収納し、拡散を防ぐ。

P：メディカルチーム

- 1.医師1名、看護師2名をメディカルチームとして配置する。
- 2.メディカルチームには「防護服」を用意する。